

逢えてよかった 浜美枝



浜美枝 (はまみえ) 女優、エンセイス。昭和18年東京生まれ。昭和35年デビュー。女優業のほか執筆活動や国士庁農村アミニティ審議会などの委員を務め、多方面で活躍中。

出会い 素晴らしいもの

富山に浦山というところがございいます。逢えてよかったという言葉を覚えてくれたのはそのお寺の、十三年前五歳だった少年です。富山から一時間ほどで無人駅に降り立ちました。五歳の少年が一人で迎えにきてくれました。夕食のとき、少年が父親に向かって聞きました。「この家でいちばん最初に生まれたの、だれ?」

「おじいちゃまだよ」
「次はだれが生まれたの?」
「おばあちゃまだよ」
少年は次々に聞いていきます。その後なんです。少年の母親がこう言いました。
「みーんを逢えてよかったね」
私はその一言を聞いたときになんだか胸がキューンとしたんです。だって当たり前のことですよ。疑問には思いませんよ。日常というものはそういう積み重ね、当たり前の幸せ、暮らしたんです。でもご縁があったて家族に出会い、近所の方に出会いました。本当に素晴らしい

ことだと思えます。「逢えてよかった」というその少年の母親の言葉というのは、私が生涯大切にしている言葉です。
いい年の重ね方を

私は昭和十八年生まれ、四十六歳です。年はどんな名ものろうと思えますよ。年って、取るんじゃないんです。重ねていくんだと思えます。私がお会いする方というのは伝統工芸的なことにかかわっておられる方が多いんです。七、八十代、ときには九十代の方もいらっしゃいます。そういう方がまず私におっしゃるの。
「あなたお幾つになられたの?」
「もう四十六です」
「まだ四十六、私八十。あなたにいくらお話ししても、この私の年にならなきや分らないことがいっぱいあるはずなの」
そうなんです。「もう」じゃないんです。「まだ」なんです。年を取るといって、後ろ向きに見てしまいがちですが、一年一年、いえ、一月、いえ、一日一日、いい年の重ね方をしたいものだなと思えます。

命、お金、時間

私は中学を出てすぐ働き出した。あの時代に中学を出てすぐバスの車掌になったのも、今考えると、よかったと思えます。それは大人になって、結婚して子供を産み育てていく過程の中で「なるほど、そういうことだったんだ」と思うことがよくあるからです。それは次の三つを経験させていただいたことでした。人様の命を預かる、人様のお金を預かる、時間を守ることです。

人様の命を預かることについて、運転手さんがおっしゃいました。「君は今、何人の命を預かっていると思うか。五十人の乗客だったら家族のことを考えなさい。百人、二百人の命を預かっているんだよ」と。しみじみそれが分かったのは、長男を育てていく過程の中でした。人様のお金を預かるということ、お金の価値観を教えていただきました。過ちを犯したり間違いを起こしたら、身銭を切って弁償すること、本当に学びたいこと知りたいことは自分の

時代の足元を見つめて

私は今が幸せだと思えば思うほど、今、この時に何が日本中で起きているのかをしっかりと見つけておきたいんです。そのために、人に出会いたいと思えます。そして、自分の感じ取ったことを皆様にも聞いていただきたいんです。それが私は自分の役目だと思えます。

新潟は私にとって思い出深い場所です。奥三面に三年間通いました。そこは八百年の歴史ある集落でした。その奥三面がダムに水没するという話を聞ききました。約三年の間に二十三、四回寄せていただきました。そうした中で、私はたくさんのお金をキイばあちゃんに教えていただきました。
奥三面のキイばあちゃん
おばあちゃんは五十年前、銘仙の着物一枚、木綿の着物二枚をふるしきに包み、村上から奥

歴史の伝承は心の伝承

こうしたことは全国にたくさんあります。そうした中で若い世代の人たちへ、私は何を手渡していったらいいのか、そのために多くのお年寄りからまだまだたくさんのお話を聞いてきた。今日は白根の風作りの様子を拝見しました。伝承というのは

心の伝承です。先祖の方たちが守り抜いたものを皆さんが守っていらつしやる。なんて素晴らしいんだらうと思えました。子供たちの幸せのために歴史は閉じていきます。それでも私は歴史は永遠に伝承していただきたいと思います、心からそう思います。

国際化途上国日本

ケント・ギルバート

ケント・ギルバート 1952年アメリカアイダホ州生まれ。カリフォルニア州弁護士資格を持つ。クイズ番組、ドラマ、CM、歌など多方面で活躍するマルチタレント。



ア アメリカと日本を比べました。日本は縦の社会です。上下関係を非常に大切にします。アメリカは横の社会です。社長のことも名前を呼び捨てです。集団と個人。東洋文化では集団行動が好きみたいです。仕事場でもグループでやっているという感じ。私たちは個人というのが好きです。
規 則と賞罰。東洋文化は規則の文化、みんな規則に従います。義務を果たすということでしょうか。これは私たちに理解できない部分です。私たちに賞罰なしの規則は考えられません。

恥 と罪。日本はどちらかという恥と罪というの強いんですね。周りがどう見ているかを気にして悪いことができなくなる。アメリカは恥かどうかはあまり考えない。罪かどうか。次に日本の官僚は強い、その上優秀です。アメリカの官僚は弱い。頭が悪いし仕事下手。弱い官僚だと、僕たちの言うことを聞かなければいけないの好きなことをやっている。空 間と時間。日本では土地が非常に狭い。私たちは空間に苦しまない代わり、時間をど

う節約するかが課題です。
次 に日本人は本音と建前の使い分けがうまい。アメリカはズバリ主義。ズバリ言わないと分からないから。日本人同士だと目を見てほしい分かります。だって日本人は千何百年、移民が全くない。ところが私たちは目を見ても何も分からない。相手は最近中近東から移民してきた人かもしれない。日本の政治家がアメリカへ行ったら前向きに検討しますと言う。日本語ではそれは、検討はしますがやりませんという意味ですね。向こうの人たちはそれをやりませんと訳しちゃう。反対の意味ですよ。

家 の隣に鈴木さんという人がいて、よくけんかするんですよ。女房と。女房は日本語が分からない。鈴木さんは英語が分からない。会話にならない。日本とアメリカによく似ているんですね。自分の立場は一生懸命言うけれども相手のことはよく理解していない。
安 定と自由です。日本のほうがちょっと安定している、アメリカのほうが自由がある。アメリカには銃を持つ自由があります。日本がどんなに平和か知っていますか? 先進国では最も平和な国ですよ。これがどれだけ安定している平和かとい

うと、僕は疑問です。武力は否定了が中立ではなく西側です。もっと完全な平和にするためにはほかの国と日本の違いをはつきりと知り、相手が変なことを言ってきたらちゃんと対応できるように体制を取らないと、誤解がけんかになって戦争になっちゃうことがある。それを避けるために理解を深めることです。
氷 山の一角に過ぎませんが、日本とアメリカだけでもこんなに違う。お互いに理解を深める必要があります。大きな仕事です。これを国際化といいますが、平和を守るために国際化をどんどんやっていますよ。